

## ダンパーフレークの導入(2)

### —配信音源再生系—

#### 1. 始めに

インフラノイズ社から、ターンテーブルアキュライザーTACU-1が発売され、その感想文を送るとダンパーフレークなる返礼品が送られてきました。前報(1)に引き続き、このものの応用を検討していきます。

#### 2. ダンパーフレークの試聴方法

今回は、配信音源再生系とし、LAN入力経路に適用してみたいと思います。配信音源再生系としては下記があります。

##### **DMR UBZ1【BPODCH・YouTube】**

ルーター→HUB→DMR UBZ1→Sonica DAC

##### **PC【デジタルサントリーホール・東京春祭・Spotify・PrimeSeat・YouTube】**

ルーター→HUB→PC→Sonica DAC

##### **fidata HFAS1-S10【Spotify Connect】**

ルーター→HUB→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+

##### **Sonica DAC【Spotify Connect】**

ルーター→HUB→Sonica DAC

上記の再生経路のLAN端子は、ルーターの出力端子、HUBの入力端子、HUBの出力端子、各機器の入力端子がありますが、ダンパーフレークの適用箇所を上記のLAN端子から選択していきます。

DMR UBZ1とfidata HFAS1-S10とSonica DACのLAN入力端子はラックの裏側で貼ったり外したりがやりにくいので除外します。また、PCの入力端子は既にUSBダンパーを使用していますので除外します。さらに同じSpotify Connectを音源とするfidata HFAS1-S10とSonica DACは前者のみに適用してみます。

また、HUB関係では、ルーターの出力端子に使用しますので、ルーターからのHUBへの入力端子も除外し、HUBから各機器に配分する出力端子に絞ります。

LAN端子に貼る場合は、ロック用の爪のない側にします。

写真は、例として写真を撮りやすいHUBからDMR UBZ1への出力端子です。



音源は、DMR UBZ1 では BPODCH、PC では PrimeSeat、fidata HFAS1-S10 では Spotify Connect とします。

### 3. ダンパーフレークの試聴結果

まずは、全体に影響が及ぶルーターの出力端子から始めます。

音源は BOPDCH のアーカイブから、ロレンツォ・ヴィオッティ指揮ベルリンフィルによるマーラーの交響曲第 3 番を選びます。

まず、ルーターの出力端子に貼って見たところ、低音楽器のホール全体に押し寄せるようなうねりが明瞭になり、弱いトレモロのような弱音も浮かび上がってきます。そして全般的にはオーケストラの各パートの分離がよくなります。

この結果から、1 枚目はルーターの出力端子への適用を固定し、HUB から各機器に配分する出力端子に 2 枚目を貼っていきます。

HUB から DMR UBZ1 への出力端子に貼って、再び、BPODCH を再生します。

上記のマーラーの交響曲第 3 番の他、下記も再生します。

ファリャ 三角帽子 ファンホ・メナ指揮 BPO

リスト ピアノ協奏曲第 1 番 キーシン (ピアノ) ヤンソンス指揮 BPO

マーラーの交響曲第 3 番は、DMR UBZ1 への出力端子に 2 枚目を貼りますと、1 枚目ほどではありませんが、同様の効果があり、特に弱音やホールの残響音が豊かになってきます。

ファリャの三角帽子は、ルーターの出力端子に貼った状態でもこれまでと違いオーケストラの各パートの立ち上がりとの分離がよくなっており、ソプラノの声の張りも違ってきます。さらに DMR UBZ1 への出力端子に 2 枚目を貼りますと、1 枚目ほどではありませんが、同様の効果があり、特にホールの残響音が豊かになってきます。

リストのピアノ協奏曲第 1 番は、ルーターの出力端子に貼った状態でもこれまでと違い、オーケストラの各パートの分離がよくなっており、さらにキーシンの演奏するスタンウェイの左手の低域の分離と沈みこみが違ってきます。さらに DMR UBZ1 への出力

端子に2枚目を貼りますと、1枚目ほどではありませんが、同様の効果があり、特にピアノの響き具合が豊かになってきます。

次に HUB から PC への出力端子に貼って、PrimeSeat を再生してみます。

再生する音源は、PrimeSeat を楽しむ(37)で報告したラトル指揮の BPODCH の 11.2MHzDSD の聴き逃し配信からドヴォルザークの管弦楽のための組曲《アメリカ》です。ルーターの出力端子に貼った状態でも [PrimeSeat を楽しむ\(37\)](#)で報告した時点から 11.2MHzDSD のややスタティックな印象を脱して響きの豊かさが現れています。さらに PC への出力端子に2枚目を貼りますと、その傾向が助長されます。

さらに HUB から fidata HFAS1-S10 への出力端子に貼って、Spotify Connect を再生してみます。

再生する音源は、神尾真由子のバッハの無伴奏パルティータと Albelt Crugnola のバッハのリュート組曲です。ルーターの出力端子に貼った状態でもこれまでと違い、圧縮音源ながら、CD なみの響きや解像度を聴かせてくれます。さらに fidata HFAS1-S10 への出力端子に2枚目を貼りますと、リュートの響きがより豊かになり、神尾真由子のヴァイオリンの細かいボウイングの様子が明瞭になり、当初の多少ぎすぎすした音が影を潜めます。

#### 4. まとめ

ダンパーフレークを適用する LAN 端子の対象を絞りこみ、それぞれの適用箇所では効果を認めました。どこを残すか迷うところですが、すべてに効果を発揮するルーターの出力端子と視聴機会の多い BPODCH に効果を発揮する HUB からの DMR UBZ1 への出力端子にします。なお、今後デジタルサントリーホールのライブ配信に際して PC へ出力端子に適用して効果を確認します。

以上